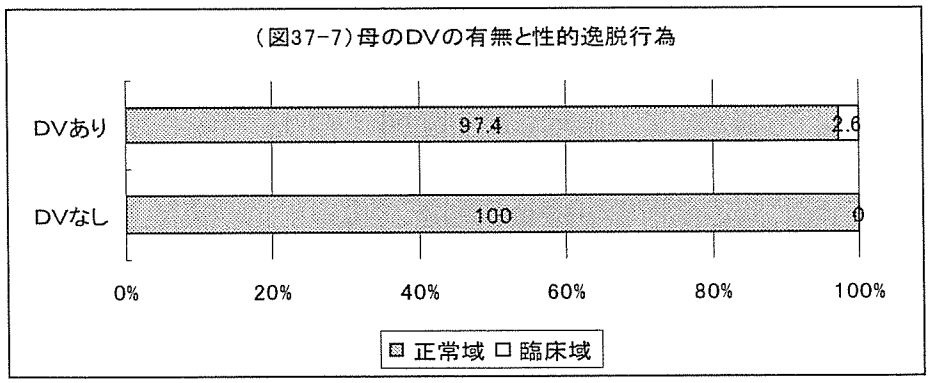
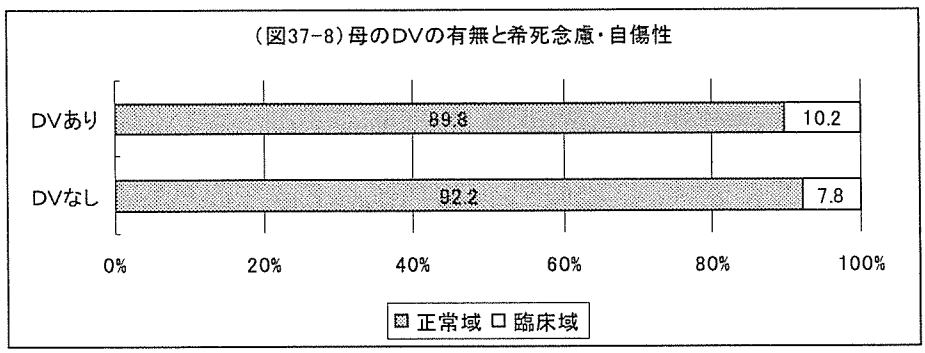
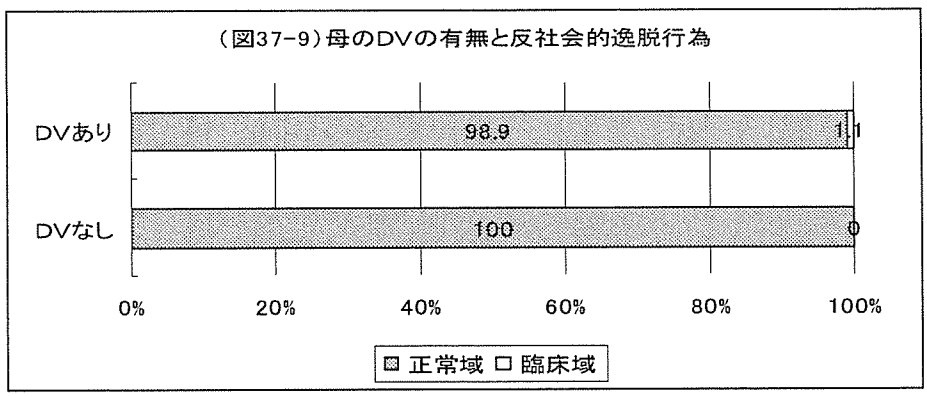
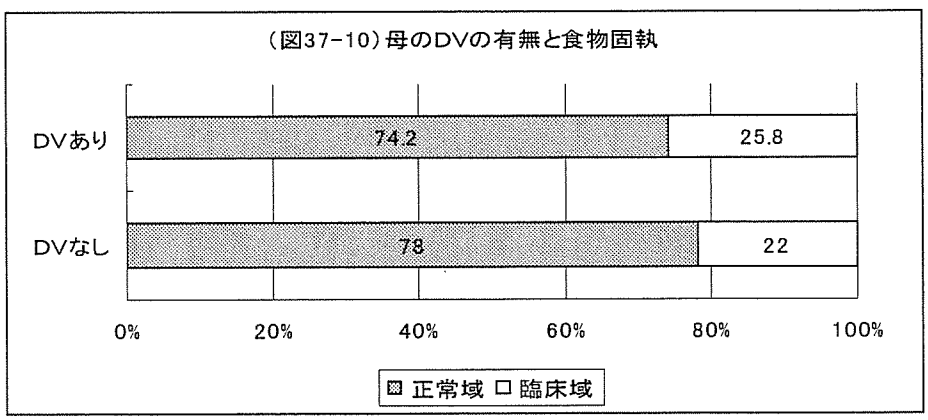
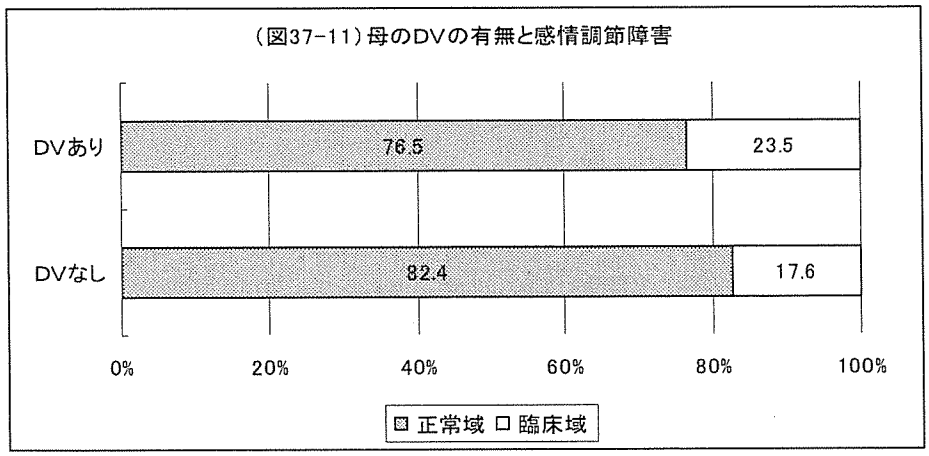
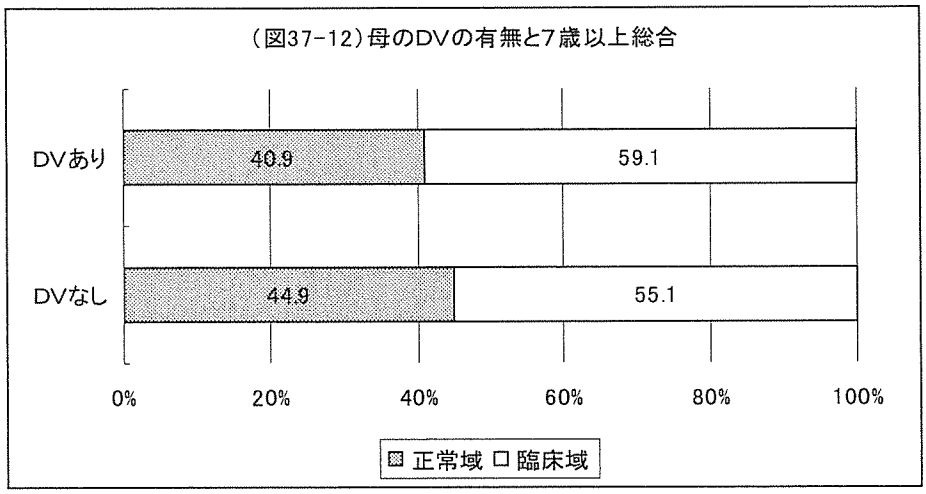

(図37-7)母のDVの有無と性的逸脱行為
DVあり
97.4
2.6
DVなし
100
0
0%
20%
40%
60%
80%
100%
正常域
臨床域

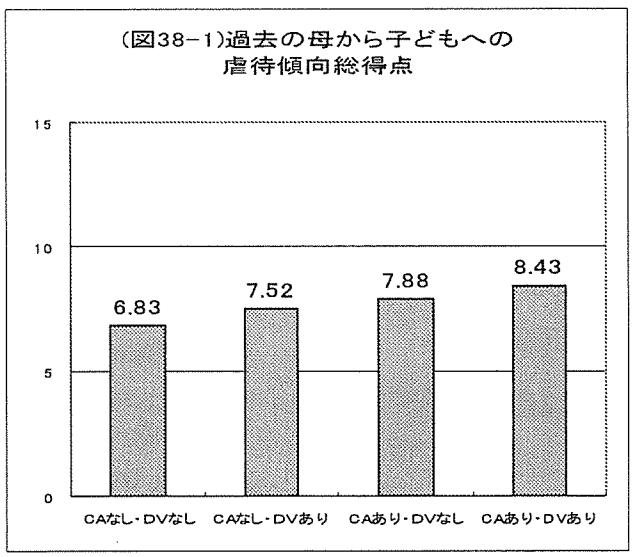

(図37-8)母のDVの有無と希死念慮・自傷性
DVあり
89.8
10.2
DVなし
92.2
7.8
0%
20%
40%
60%
80%
100%
正常域
臨床域


(図37-9)母のDVの有無と反社会的逸脱行為
DVあり
98.9
1.1
DVなし
100
0
0%
20%
40%
60%
80%
100%
正常域
臨床域

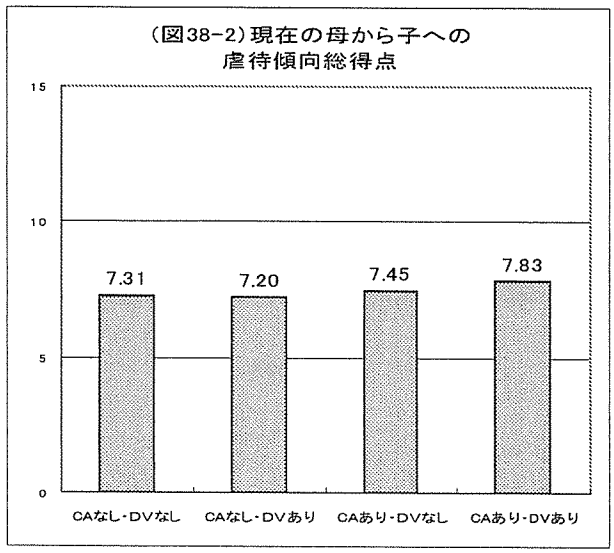

(図37-10)母のDVの有無と食物固執
DVあり
74.2
25.8
DVなし
78
22
0%
20%
40%
60%
80%
100%
正常域
臨床域



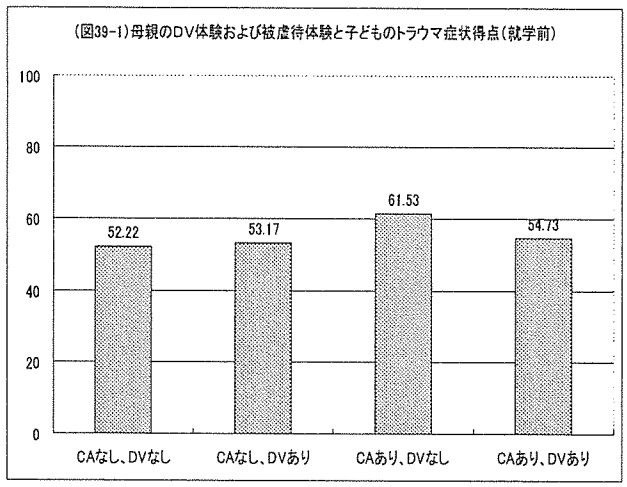




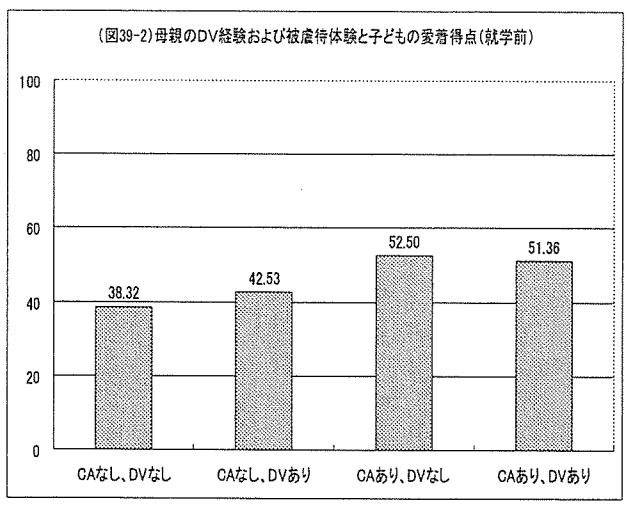
CAなし・DVなし＜CAなし・DVあり
p<.05
CAなし・DVあり＜CAあり・DVあり
CAなし・DVなし＜CAあり・DVあり
p<.001



CAなし・DVあり＜CAあり・DVあり
p<.001



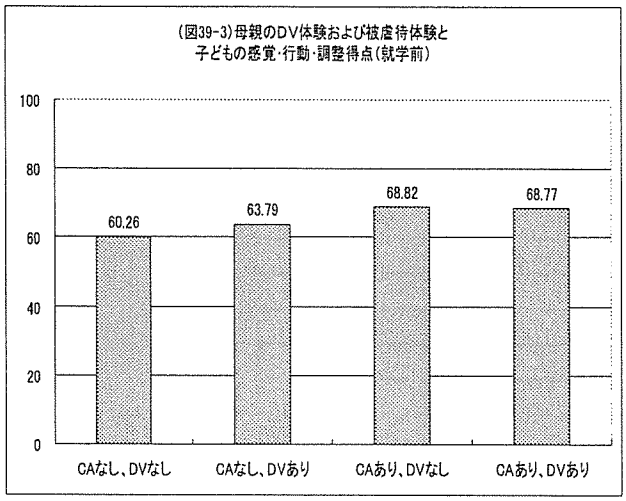
CAなし、DVなし＜CAあり、DVなし
t=−2.515,p<.05



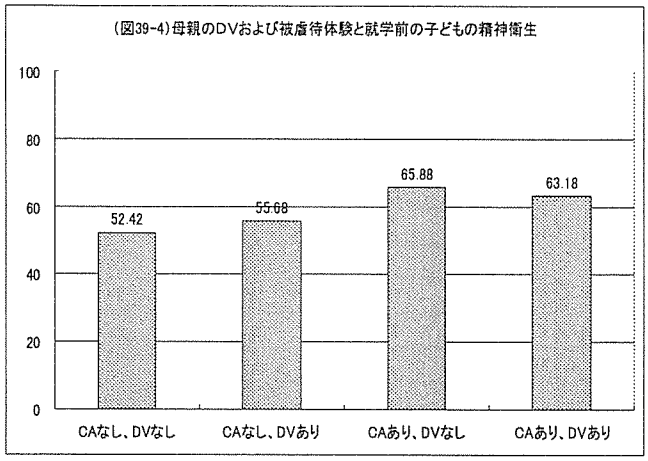
CAなし、DVなし＜CAあり、DVなし
t=−3.846,p<.001

CAなし、DVあり＜CAあり、DVあり
t=−4.302,p<.001

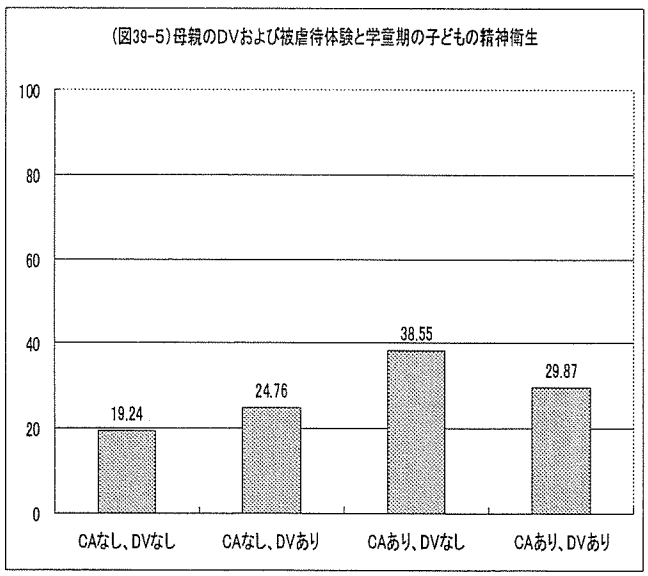
CAなし、DVなし＜CAあり、DVあり
t=−3.631,p<.001



CAなし、DVなし＜CAあり、DVなし
t=−2.192,p<.05
CAなし、DVあり＜CAあり、DVあり
t=−2.703,p<.05
CAなし、DVなし＜CAあり、DVあり
t=−2.905,p<.05



CAなし、DVなし＜CAあり、DVなし
t=−3.290,p<.01
CAなし、DVあり＜CAあり、DVあり
t=−3.867,p<.01
CAなし、DVなし＜CAあり、DVあり
t=−3.465,p<.01



CAなし、DVなし＜CAあり、DVなし
t=−3.200,p<.01
CAなし、DVなし＜CAあり、DVあり
t=−2.643,p<.01

有意差が認められたもの

（表8）母の自己申告によるDV体験の有無と子どもの精神衛生

		N	M	SD
トラウマ	なし	46	56.07	13.07
	あり	222	53.95	13.77
愛着	なし	43	44.26	13.75
	あり	206	46.86	15.33
行動	なし	44	63.57	13.16
	あり	212	66.30	13.60
総合	なし	40	57.80	14.18
	あり	196	59.43	14.05
7歳以上総合得点	あり	49	21.78	17.63
	なし	255	23.78	19.18
虐待的人間関係	なし	51	3.65	3.90
	あり	268	3.78	3.90
力による対人関係	なし	51	2.75	2.64
	あり	261	3.36	3.04
自信の欠如	なし	51	2.75	3.12
	あり	265	2.49	2.95
注意・多動の問題	なし	51	4.16	4.40
	あり	265	3.70	3.69
学校不適応	なし	51	1.92	2.57
	あり	269	2.16	2.80
感情の抑制・抑圧	なし	51	1.22	1.81
	あり	263	1.62	2.52
性的逸脱行為	なし	51	0.25	0.77
	あり	267	0.58	1.41
希死念慮・自傷性	なし	51	1.69	2.23
	あり	265	1.77	2.57
反社会的逸脱行為	なし	50	0.18	0.60
	あり	278	0.48	1.20
食物固執	なし	50	1.92	2.31
	あり	267	2.18	2.48
感情調整障害	なし	51	1.69	2.45
	あり	268	1.84	2.60
危険項目	なし	50	1.80	2.29
	あり	266	2.37	2.91

（表9）母親自身の過去の被虐待体験と子どもの精神衛生

		N	M	SD
トラウマ	なし	139	52.90	12.73
	あり	130	55.72	14.48
愛着	なし	130	41.72	11.01
	あり	119	51.53	17.16
行動	なし	133	62.98	12.22
	あり	124	68.77	14.28
総合	なし	122	55.04	12.12
	あり	114	63.56	14.69
7歳以上総合得点	あり	176	20.82	17.62
	なし	128	27.09	20.08
虐待的人間関係	なし	185	3.26	3.71
	あり	134	4.44	4.04
力による対人関係	なし	181	3.02	3.00
	あり	131	3.60	2.94
自信の欠如	なし	184	2.37	2.85
	あり	132	2.76	3.13
注意・多動の問題	なし	184	3.47	3.68
	あり	132	4.20	3.95
学校不適応	なし	186	2.00	2.63
	あり	134	2.30	2.94
感情の抑制・抑圧	なし	183	1.28	2.20
	あり	131	1.95	2.66
性的逸脱行為	なし	184	0.42	1.13
	あり	134	0.68	1.55
希死念慮・自傷性	なし	184	1.39	2.18
	あり	132	2.26	2.85
反社会的逸脱行為	なし	191	0.40	1.13
	あり	137	0.48	1.14
食物固執	なし	184	1.99	2.43
	あり	133	2.33	2.48
感情調整障害	なし	185	1.55	2.39
	あり	134	2.18	2.78
危険項目	なし	185	2.14	2.83
	あり	131	2.48	2.82

（表10） 現在の法律上の婚姻状況と子どもの精神衛生

		N	M	SD
トラウマ	未入籍	42	56.02	15.15
	入籍したまま	53	54.38	14.68
	離婚している	180	53.74	12.92
愛着	未入籍	37	49.68	15.24
	入籍したまま	49	51.00	18.11
	離婚している	167	44.23	13.53
行動	未入籍	40	68.78	14.27
	入籍したまま	50	67.16	13.62
	離婚している	173	64.92	13.26
総合	未入籍	35	61.26	14.35
	入籍したまま	47	61.64	15.17
	離婚している	158	57.95	13.45
7歳以上総合得点	未入籍	19	28.84	21.22
	入籍したまま	43	31.40	23.78
	離婚している	245	21.65	17.34
虐待的人間関係	未入籍	23	4.04	3.72
	入籍したまま	44	4.91	4.57
	離婚している	255	3.59	3.81
力による対人関係	未入籍	22	3.36	3.16
	入籍したまま	44	4.52	3.90
	離婚している	249	3.03	2.75
自信の欠如	未入籍	22	3.91	3.58
	入籍したまま	43	3.00	3.02
	離婚している	254	2.31	2.88
注意・多動の問題	未入籍	22	5.91	4.47
	入籍したまま	44	4.95	4.44
	離婚している	253	3.38	3.51
学校不適応	未入籍	23	2.26	2.43
	入籍したまま	44	2.18	2.76
	離婚している	256	2.08	2.79
感情の抑制・抑圧	未入籍	22	2.23	3.21
	入籍したまま	44	1.89	2.55
	離婚している	251	1.42	2.30
性的逸脱行為	未入籍	23	0.43	1.12
	入籍したまま	44	0.48	1.32
	離婚している	254	0.55	1.35
希死念慮・自傷性	未入籍	22	2.00	2.49
	入籍したまま	44	2.68	3.58
	離婚している	253	1.57	2.24
反社会的逸脱行為	未入籍	22	0.59	1.40
	入籍したまま	46	0.54	1.21
	離婚している	264	0.40	1.09
食物固執	未入籍	23	2.04	2.58
	入籍したまま	44	3.09	2.78
	離婚している	253	2.00	2.35
感情調整障害	未入籍	23	2.17	2.85
	入籍したまま	44	2.57	3.24
	離婚している	255	1.65	2.39
危険項目	未入籍	21	3.10	3.00
	入籍したまま	44	2.66	3.12
	離婚している	254	2.13	2.75

（表11）法廷での係争・調停と子どもの精神衛生

		N	M	SD
トラウマ	終了した	66	54.33	14.52
	現在係争、調停	42	56.31	15.76
	必要なかった	150	53.06	12.57
愛着	終了した	63	43.59	13.38
	現在係争、調停	40	53.55	19.11
	必要なかった	134	45.41	14.04
行動	終了した	65	61.63	11.84
	現在係争、調停	41	70.07	14.72
	必要なかった	142	66.58	13.42
総合	終了した	59	56.25	13.33
	現在係争、調停	39	64.33	16.10
	必要なかった	128	58.88	13.54
7歳以上総合得点	終了した	104	21.88	17.20
	現在係争、調停	21	32.29	23.31
	必要なかった	164	21.99	18.09
虐待的人間関係	終了した	110	3.94	3.74
	現在係争、調停	21	5.43	4.13
	必要なかった	170	3.26	3.64
力による対人関係	終了した	106	3.13	2.60
	現在係争、調停	21	5.38	4.12
	必要なかった	169	3.01	2.91
自信の欠如	終了した	109	2.06	3.10
	現在係争、調停	21	2.52	2.56
	必要なかった	169	2.66	2.88
注意・多動の問題	終了した	109	3.17	3.44
	現在係争、調停	21	4.48	3.88
	必要なかった	170	3.82	3.73
学校不適応	終了した	110	1.99	2.75
	現在係争、調停	21	1.43	1.89
	必要なかった	171	2.07	2.60
感情の抑制・抑圧	終了した	107	1.76	2.82
	現在係争、調停	21	2.00	2.65
	必要なかった	169	1.41	2.16
性的逸脱行為	終了した	109	0.61	1.64
	現在係争、調停	21	0.95	1.80
	必要なかった	170	0.44	1.03
希死念慮・自傷性	終了した	108	1.87	2.59
	現在係争、調停	21	2.67	3.85
	必要なかった	170	1.46	2.03
反社会的逸脱行為	終了した	117	0.48	1.29
	現在係争、調停	23	0.57	1.16
	必要なかった	170	0.36	0.98
食物固執	終了した	109	2.19	2.46
	現在係争、調停	21	3.43	2.42
	必要なかった	169	1.91	2.35
感情調整障害	終了した	110	1.67	2.24
	現在係争、調停	21	3.43	3.28
	必要なかった	170	1.55	2.43
危険項目	終了した	110	2.28	3.01
	現在係争、調停	21	2.05	2.78
	必要なかった	167	2.04	2.46

(表12)元夫・パートナーから子どもへの虐待と子どもの精神衛生

		N	M	SD
トラウマ	なし	139	52.95	13.56
	あり	122	56.29	13.98
愛着	なし	134	45.11	14.67
	あり	110	47.52	15.09
行動	なし	131	65.41	14.31
	あり	119	66.39	12.80
総合	なし	123	58.50	14.79
	あり	108	59.98	13.25
7歳以上総合得点	あり	118	20.31	18.08
	なし	188	25.36	19.02
虐待的人間関係	なし	120	3.31	3.81
	あり	200	4.05	3.94
力による対人関係	なし	119	2.51	2.54
	あり	195	3.67	3.13
自信の欠如	なし	119	2.40	2.83
	あり	198	2.64	3.07
注意・多動の問題	なし	119	3.74	4.13
	あり	198	3.80	3.56
学校不適応	なし	121	1.83	2.69
	あり	200	2.32	2.79
感情の抑制・抑圧	なし	119	1.12	1.74
	あり	196	1.78	2.72
性的逸脱行為	なし	120	0.39	1.19
	あり	199	0.59	1.39
希死念慮・自傷性	なし	119	1.55	2.27
	あり	198	1.86	2.65
反社会的逸脱行為	なし	124	0.33	1.09
	あり	204	0.50	1.16
食物固執	なし	118	1.83	2.44
	あり	200	2.41	2.44
感情調整障害	なし	120	1.25	2.16
	あり	200	2.13	2.75
危険項目	なし	119	1.95	2.83
	あり	198	2.53	2.83

（表13）過去の母から子どもへの虐待と子どもの精神衛生

		N	M	SD
トラウマ	なし	150	53.78	13.50
	あり	89	57.01	14.89
愛着	なし	142	44.27	13.91
	あり	81	50.01	16.06
行動	なし	147	64.82	13.59
	あり	80	68.39	14.07
総合	なし	136	57.86	14.18
	あり	75	62.21	14.63
7歳以上総合得点	あり	174	19.72	16.50
	なし	115	29.06	21.04
虐待的人間関係	なし	178	3.39	3.63
	あり	124	4.43	4.31
力による対人関係	なし	176	2.67	2.70
	あり	120	4.08	3.24
自信の欠如	なし	177	2.13	2.55
	あり	123	3.15	3.43
注意・多動の問題	なし	177	3.20	3.49
	あり	122	4.79	4.12
学校不適応	なし	178	1.68	2.33
	あり	125	2.77	3.12
感情の抑制・抑圧	なし	176	1.14	1.88
	あり	121	2.06	2.93
性的逸脱行為	なし	178	0.34	1.00
	あり	123	0.80	1.69
希死念慮・自傷性	なし	177	1.33	2.16
	あり	122	2.38	2.77
反社会的逸脱行為	なし	183	0.30	0.85
	あり	126	0.56	1.38
食物固執	なし	176	1.97	2.21
	あり	124	2.45	2.68
感情調整障害	なし	178	1.56	2.36
	あり	124	2.20	2.85
危険項目	なし	178	1.75	2.21
	あり	122	3.07	3.41

（表14）現在の母から子どもへの虐待と子どもの精神衛生

		N	M	SD
トラウマ	なし	204	52.80	12.83
	あり	66	58.74	15.37
愛着	なし	191	45.19	14.17
	あり	59	50.27	16.26
行動	なし	198	63.57	12.50
	あり	62	73.42	14.34
総合	なし	180	57.02	12.92
	あり	57	66.49	15.03
7歳以上総合得点	あり	214	20.33	17.08
	なし	91	31.26	20.55
虐待的人間関係	なし	221	3.42	3.52
	あり	97	4.77	4.63
力による対人関係	なし	218	2.85	2.75
	あり	94	4.17	3.34
自信の欠如	なし	221	2.27	2.85
	あり	95	3.25	3.17
注意・多動の問題	なし	221	3.13	3.39
	あり	94	5.45	4.21
学校不適応	なし	221	1.87	2.56
	あり	97	2.67	3.12
感情の抑制・抑圧	なし	218	1.48	2.47
	あり	95	1.74	2.32
性的逸脱行為	なし	220	0.40	1.12
	あり	97	0.85	1.69
希死念慮・自傷性	なし	220	1.42	2.20
	あり	95	2.57	2.98
反社会的逸脱行為	なし	230	0.34	0.92
	あり	96	0.63	1.47
食物固執	なし	220	2.03	2.39
	あり	96	2.58	2.58
感情調整障害	なし	221	1.59	2.33
	あり	97	2.27	2.95
危険項目	なし	220	2.00	2.46
	あり	95	2.97	3.47

(表15)母の解離と子どもの精神衛生

		N	M	SD
トラウマ	高群	175	52.35	11.83
	低群	86	58.31	15.46
愛着	高群	163	44.38	14.63
	低群	78	49.99	15.48
行動	高群	169	63.59	12.76
	低群	80	69.49	13.61
総合	高群	155	56.86	13.33
	低群	75	63.44	14.40
7歳以上総合得点	高群	183	18.91	16.55
	低群	115	31.10	20.31
虐待的人間関係	高群	188	3.13	3.59
	低群	120	4.73	4.07
力による対人関係	高群	186	2.70	2.77
	低群	119	4.18	3.14
自信の欠如	高群	188	2.20	2.69
	低群	119	3.09	3.30
注意・多動の問題	高群	188	3.07	3.58
	低群	120	4.89	3.86
学校不適応	高群	188	2.02	2.91
	低群	120	2.34	2.55
感情の抑制・抑圧	高群	185	1.05	1.95
	低群	120	2.33	2.70
性的逸脱行為	高群	188	0.36	1.14
	低群	120	0.76	1.54
希死念慮・自傷性	高群	187	1.24	1.92
	低群	120	2.57	3.08
反社会的逸脱行為	高群	196	0.35	1.10
	低群	121	0.57	1.20
食物固執	高群	188	1.78	2.34
	低群	119	2.76	2.50
感情調整障害	高群	188	1.40	2.34
	低群	120	2.53	2.83
危険項目	高群	187	2.05	2.97
	低群	118	2.64	2.57

(表16)母の抑うつと子どもの精神衛生

		N	M	SD
トラウマ	なし	143	51.13	12.03
	あり	121	57.85	15.01
愛着	なし	137	42.93	13.50
	あり	110	50.76	15.87
行動	なし	140	63.33	12.91
	あり	117	69.32	13.72
総合	なし	130	55.92	12.54
	あり	106	63.34	14.86
7歳以上総合得点	あり	169	18.11	16.06
	なし	119	31.24	20.18
虐待的人間関係	なし	174	3.25	3.77
	あり	126	4.78	4.14
力による対人関係	なし	171	2.68	2.77
	あり	124	4.10	3.16
自信の欠如	なし	174	1.94	2.72
	あり	125	3.23	3.11
注意・多動の問題	なし	174	2.84	3.42
	あり	125	5.10	3.99
学校不適応	なし	174	1.70	2.64
	あり	127	2.65	2.92
感情の抑制・抑圧	なし	172	1.18	2.12
	あり	124	2.07	2.71
性的逸脱行為	なし	173	0.43	1.29
	あり	126	0.60	1.26
希死念慮・自傷性	なし	173	1.28	2.08
	あり	125	2.54	2.93
反社会的逸脱行為	なし	183	0.42	1.18
	あり	127	0.42	0.97
食物固執	なし	174	1.92	2.36
	あり	125	2.60	2.59
感情調整障害	なし	174	1.24	2.13
	あり	126	2.71	2.95
危険項目	なし	173	1.92	2.93
	あり	124	2.71	2.73

（表17）母のトラウマと子どもの精神衛生

		N	M	SD
トラウマ	なし	152	51.15	11.53
	あり	114	58.49	15.38
愛着	なし	141	43.21	13.84
	あり	105	50.71	15.63
行動	なし	149	63.30	12.95
	あり	108	69.28	13.75
総合	なし	136	56.13	12.54
	あり	99	63.57	15.00
7歳以上総合得点	あり	184	18.55	15.91
	なし	109	32.52	20.43
虐待的人間関係	なし	188	3.19	3.63
	あり	117	4.99	4.22
力による対人関係	なし	186	2.67	2.67
	あり	114	4.41	3.26
自信の欠如	なし	188	2.13	2.84
	あり	116	3.31	3.16
注意・多動の問題	なし	188	3.03	3.42
	あり	116	5.16	4.06
学校不適応	なし	188	1.72	2.60
	あり	118	2.81	2.99
感情の抑制・抑圧	なし	186	1.13	1.97
	あり	115	2.26	2.88
性的逸脱行為	なし	188	0.39	1.16
	あり	116	0.65	1.29
希死念慮・自傷性	なし	187	1.22	2.00
	あり	116	2.59	2.97
反社会的逸脱行為	なし	195	0.39	1.12
	あり	119	0.45	1.06
食物固執	なし	188	1.85	2.25
	あり	116	2.82	2.70
感情調整障害	なし	188	1.24	2.09
	あり	117	2.83	3.01
危険項目	なし	187	1.82	2.79
	あり	115	3.06	2.84

３．被害児童のバウムテスト

Ｄ．背景

被虐待体験を持つと思われる児童を対象にして樹木画テスト(バウムテスト)を施行し，被虐待体験の心理的影響を調査することを目的としている．児童は一般に自分の体験や心理的ダメージを言語的に表現するのは困難な場合が少なくない．今回の調査で，母親に対しては質問紙を使って調査をおこなえたが，児童については質問紙による調査研究は困難と考えられた．そこで描画テストから心理学的所見を評価することにした．描画テストには人物画や家族画などさまざまな方法があるが，被虐待体験をある児童を対象としているので，「人物」や「家族」といった極めて被虐待的状況を連想させるテーマを避け，「木」を描いてもらう樹木画テスト(バウムテスト)をおこなうことにした．

また，今回の調査と平行して公立小学校生徒３００名の樹木画も収集できたので，一般児童との比較もおこないどのような点で対象児童が心理的ダメージを受けているかについて，比較検討した．

Ｅ．.対象と分析方法

１．対象児童

母子寮に入っている母子に質問紙によるアンケート調査を実施し，「表１．調査対象数」に見られるように，合計６６５組の母親から質問紙による資料の収集をおこなった．その際，母親に子どもに対して「木を描く」という課題をおこなってもらうように依頼した．

その結果，「表２．樹木画(バウムテスト)実施状況」に示したように，男児３３１名中２３０名(69.5%)，女児３３３名中２３４名(70.3%)が描画に協力してくれた．年齢分布は，表２．に見るように，１歳から１８歳までで，樹木画の枚数は４６４枚集められた．

なお，公立小学校生徒３００名の樹木画を対照群とした．

２．分析方法

（１）樹木画の読み方

樹木画テストは，スイスの職業カウンセラー，コッホが発案したと言われている．日本には１９７０年代に導入されて，精神医療の現場や心理査定のツールとして用いられ，この数年間の臨床心理士が使用する心理検査のなかで最も使用頻度の高いテストである．それにもかかわらず，読み方が定式化されず，実施が容易であるため簡単に用いられるが，解釈が難しいと言われてきた．

しかし，１９９５年に出版され，２００２年に邦訳されたカスティーラの『バウムテスト活用マニュアル-精神症状と問題行動の評価』(金剛出版．2002年)では，それまでの印象や象徴による解釈だけでなく，描画から心理学的サインを抽出し，これを基に被検者の心理や精神病理を読み解くという方法がとられるようになってきている．描画を読む手順については，現在のところまだ確定したものはないのだが，本調査研究では大量の描画から特徴を抽出する作業をおこなうため，心理学的サインに注目して分析をおこなった．

（２）樹木画（バウムテスト）の心理学的サインについて

樹木画（バウムテスト）の読み方は，一般に以下の７つの点に注目しておこなわれる．①形態．②位置，③大きさ，④描線，⑤空間象徴，⑥木の象徴性（樹冠・幹・根など），⑦ウロ．

今回の調査に用いた心理学的サインを中心に簡単に説明を加えることにする．

①形態

形態では，「木に見えるか」がポイントとなる．形態についてさまざまな指摘がされていて，これまでに次のようなことが言われている．貧弱なあるいは子どもっぽい形態（知的障害），子どもっぽい形態（神経症・精神病），木とは思えない形態（神経症・精神病、薬物依存），抽象的でちぐはぐな形態（接触困難、現実から切り離されている状態），特徴的な木を描いた場合例えば，椰子の木（逃避），さらに極端に抽象的な木や空想的な木についてもさまざまな解釈がある．

本研究ではまず対象児童の描画が「木に見えるか」どうかを検討した．年齢的に描画可能年齢が

何歳からかを調べた．また「木に見えない」描画であれば，心理学的サインを読み取ることもできないのである．形態についてもう一つ注目したのは「木が擬人的」であるかという点である．シロール(1965)は，「擬人的で人間のように見える木」は，未熟さのサインであり，父親のイメージにおそれを抱いていると，報告しているので，ＤＶの体験を含む児童が多いことから，このサインに注目した．

②位置

用紙上に描画された木がどのように配置されるかによってさまざまな解釈仮説があるが，本研究の分析には使用していない．

③大きさ

大きな木は外向的，小さな木は抑うつ傾向，小さすぎる木は内向的性格などの指摘がある．

④描線

多くの場合鉛筆を使用している．鉛筆の描く線にも筆圧の強さ，濃淡，運筆の速さなどから多くの解釈仮説がある．例として以下のような描線と心理学的サインの関連が報告されている．（例：鋭い描線：神経過敏、攻撃性．ギザギザした描線：神経過敏、攻撃性．筆圧の弱い描線：抑うつ傾向．細く薄い描線：感じやすさ．繰り返しなぞられた描線：神経過敏、固執傾向など）

⑤空間象徴（上下と左右の描き方の違い）

例えば，幹の左右の輪郭線で描線が違っている，あるは樹冠部と幹を比較すると描画の上下で著しい陰影のコントラストが見られるなど，左右・上下を比較することから得られる所見である．幹の輪郭線で右側が濃く，左側が薄い場合には，現実の生活での不如意を表現している．経済的な困窮が示されることもある．

⑥木の象徴性（樹冠・幹・根など）

木の描画は，根、地面、幹、樹冠、枝の大きく５つに分けられる。根は「根づきの問題」，「本能や衝動性の領域」，幹は自我感情，樹冠部は人格の発展や周囲との対人関係を表現すると考えられている．

⑦ウロ

ウロ（虚）は幹に描かれた傷跡で，描画では幹の表面に丸形の模様，渦巻き，幹の輪郭線の断裂，太い幹の極端な捻れ，あるいは樹皮にとまった虫などで表現される．これはトラウマのサインであり，これまでの人生で何か現在の状態に大きく影響を与えている出来事である場合が多い．しかも木の描画の下端を０歳とし，上端を現在の年齢として高さを測定すると，何歳の時の出来事か判断することが出来る．

（３）本研究で採用した心理学的サインと分析方法

上述したように，木の形態からは，「木に見えるか」と「擬人的な木」を分析アイテムとした．

また，カスティーラが報告した「不安」「抑うつ」「神経過敏」のサインを参考にした．それ以外に「強迫傾向」は描線と描き方から判断し，「解離」については，精神の領域である樹冠部と情緒・感情の領域である幹が截然と分かれた描き方からサインとした．

カスティーラのサイン：

「不安」の主なサイン：濃い陰影（地面のライン、根、幹、枝、茂み）／強い筆圧あるいは殴り書きの描線／小さな木／用紙の左側に位置する木／不連続な描線／葉の密生している木／葉のない枝

「神経過敏」の主なサイン：茂みの中で交差し，ぶつかり合う描線／殴り書きや乱雑な線で描かれた茂み／濃い陰影／鋭い描線（これは攻撃性を示すサインでもある）／幹の根もとに見られる黒い横線／殴り書きの強い筆圧／矢のように鋭い描線(情緒のコントロール不良)／何度も書き加えられたジグザグの描線．

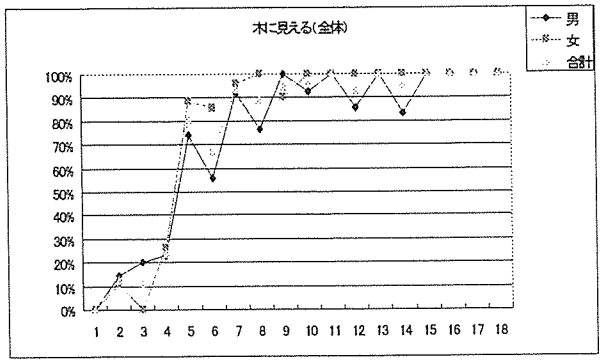
「抑うつ傾向」の主なサイン：下方に下がる茂み（しだれ柳など）／描線が切れ切れになっている幹／殴り書きの描線／葉のない単線の枝が描かれた小さな木／濃い陰影(不安のサイン)／茂みの中に見られる対称的なライン構成／神経過敏のサイン(不連続で何度も書き加えられた描線など)／筆圧の弱い描線．

F．結果

(1) 形態

①「木に見える」形態

図１．



４歳までは木に見えない形態が多く，５歳以上になると 80%以上の描画が樹木画(バウムテスト)らしくなり，所見を読み取ることができる．男女差があり，５歳から９歳までの間で特に顕著である．

図２．

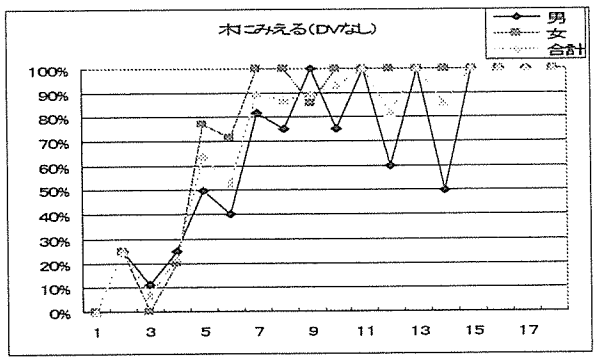


図３．

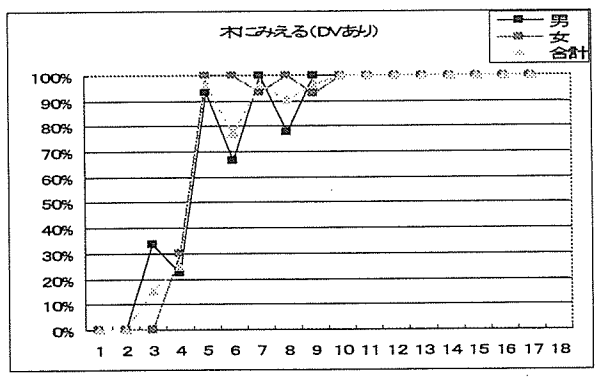
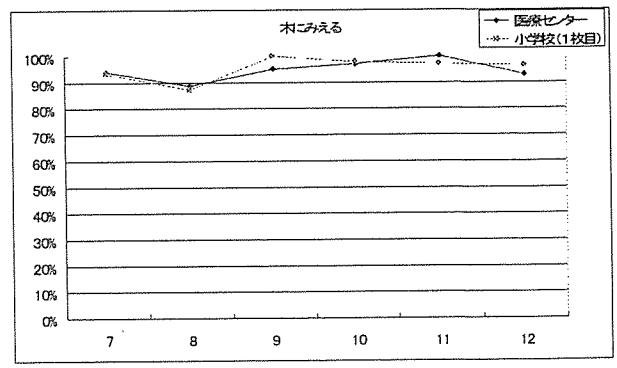


図２と図３は，DV 体験の有無で分けている．DV 体験が「木に見える」形態か否かにあまり影響を与えていないようである．

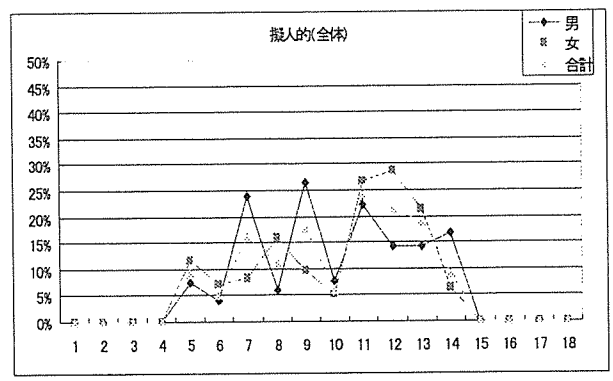
図４．



公立小学校のデータは７歳から１２歳までなので，調査対象となった児童のうち同年齢のものと比較したところ，両群とも７歳以上であることから，傾向はほとんど同じであった．

②「擬人的」形態

図５．



擬人的に見える木では，５歳から１４歳までに出現しやすく，しかも１０歳を境にして二峰性になっている．男児では１０以前に多く，女児では１０歳から１３歳に多い．

図６．

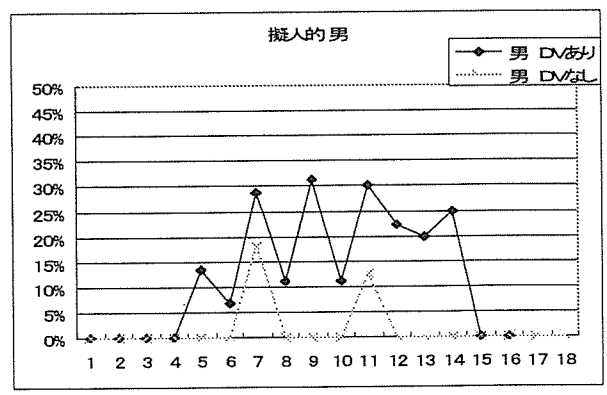


図６は，擬人的な木の出現とＤＶ体験の有無を

男児の場合について示している．ＤＶ体験のある児童の方が優位に出現頻度が高く，しかも１２歳から１４歳ではＤＶ体験のない児童では，擬人的な描画は１枚もなかった．

図７．

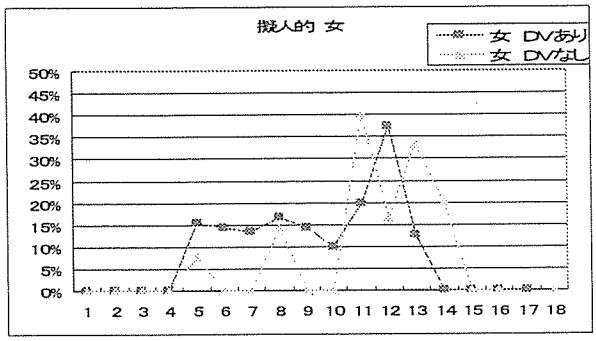
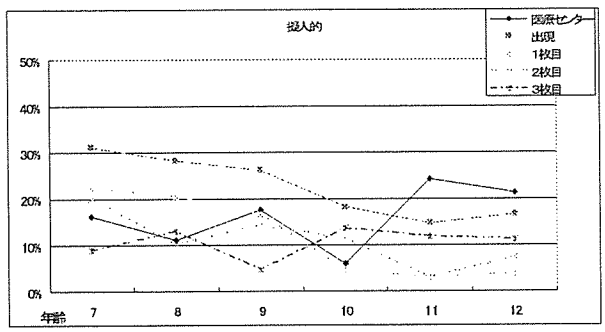


図７は女児の場合である．男児と異なるのはＤＶ体験の有無に関係なく，１１歳から１４歳で高い頻度を示している．

図８．



対照群との比較をおこなっている．対照群は樹木画テストを三枚法でおこなっている．一般に三枚目の「夢の木」に擬人的な木は表現されやすいので，対照群の１枚目を比較すると１０歳以降では対象児童に擬人的に木が出現しやすい．

(2) 不安のサイン

不安のサインは，カスティーラのサインを用いて検討している．図９は対象児童の男女差を示している．12 歳までは女児のほうが不安のサインが多く出現している描画が多いが，13 歳以上になると男児が多くなり，特に 15 歳以上の男児ではほとんどすべてに不安のサインが読み取れる．

図９．

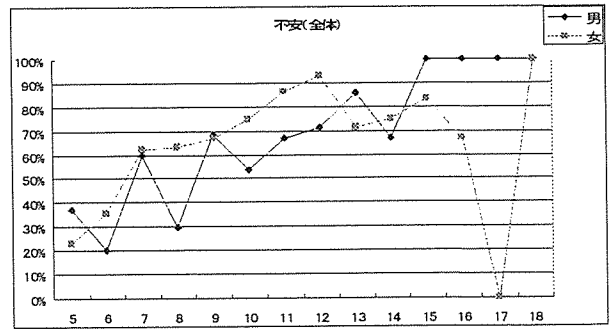
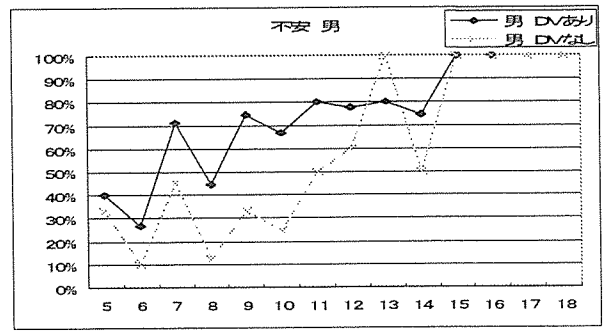


図 10.



男児における DV 体験の有無と不安のサインの出現頻度を示したのが図 10 である．13 歳の男児を別にすれば，DV 体験ありのほうが不安のサインを出しやすい．

図 11.

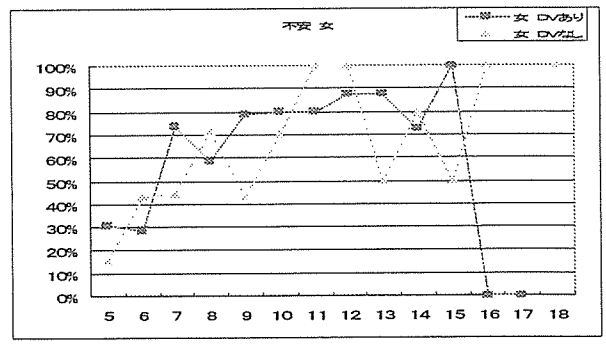


図 10 と同様に女児の場合について調べたのが図 11 である．11 歳と 12 歳の女児ではほとんどが不安のサインを出している．

図 12.

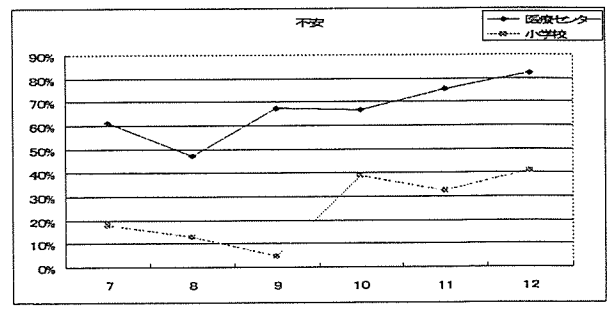
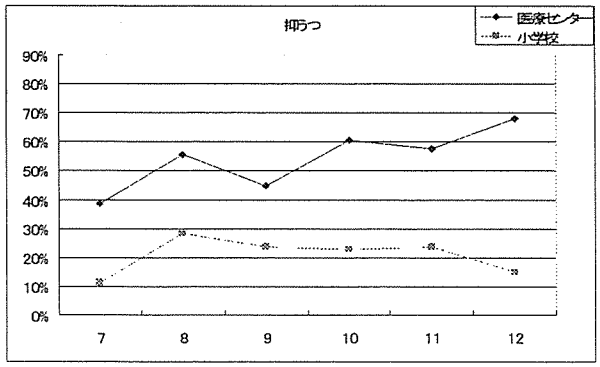


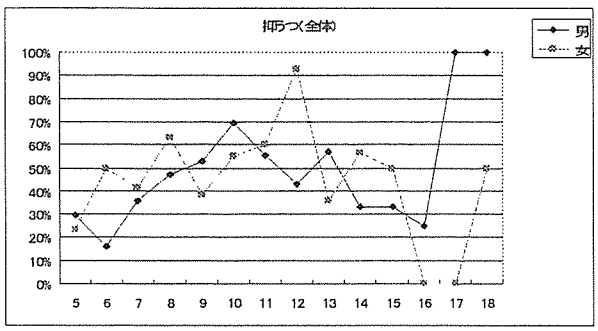
図 12 は公立小学校の児童と比較している，公立小学校児童では 10 歳頃から急激に不安のサインを示すが全体の 40%程度であるのに対して，対象の児童では，どの年齢でも出現頻度が高く，特に 9 歳以上では 65%を越える．



(3) 抑うつのサイン

不安のサインと同様の手順で出現頻度を調べた．

図 13.



女児の 12 歳，男児の 17，18 歳で抑うつのサインが頻繁に見られた．

図 14.

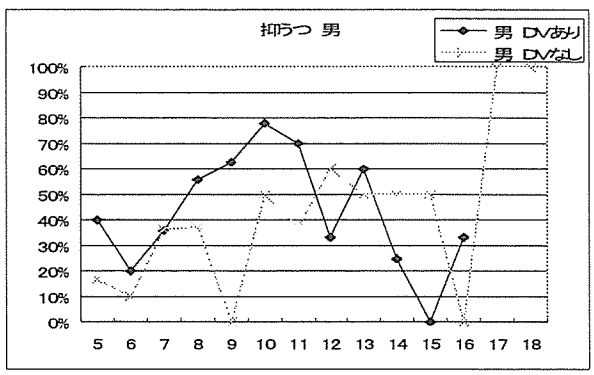


図 15.

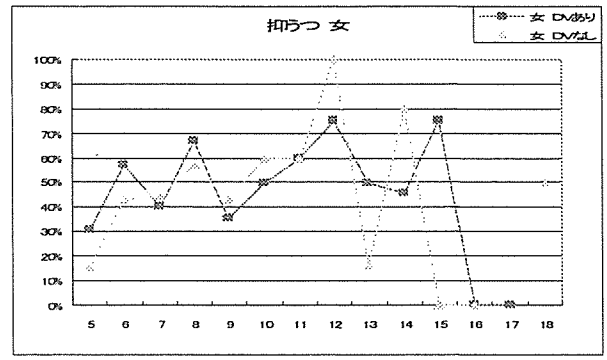


図 14 と図 15 は男女別で DV 体験の有無に分けて，抑うつのサインを検討している．女児では DV の影響による違いは認められない．男児では 11 歳以下で優位に高い．

図 16.

抑うつのサインの出現頻度を公立小学校児童と比較した．不安のサインと同様の結果であった．しかし，両群とも不安のサインと比較して抑うつのサインの出現頻度はやや低かった．

(4) 神経過敏と強迫傾向のサイン

神経過敏と強迫のサインについては，公立小学校児童と対象児童との出現頻度を比較したものを図 17 と図 18 に示した．

図 17.

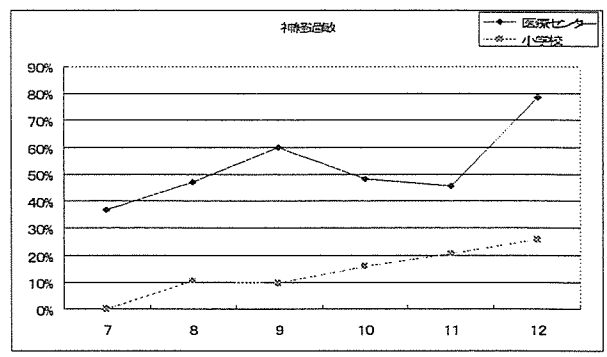
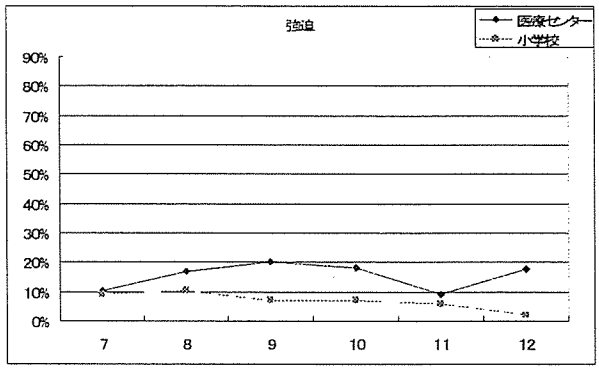


図 18.



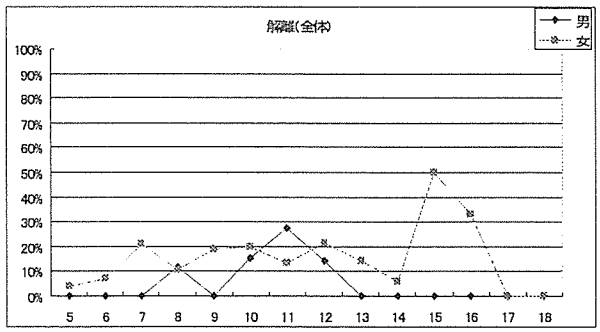
神経過敏のサインについては，不安や抑うつのサインと同様に対象児童のほうが，公立小学校児童に比べて優位に出現する傾向になった．

しかし，強迫傾向については著しい差は見られなかった．

(5) 解離

解離については，不安や抑うつと同じ手順で調べている．図 19〜図 22 に示した．

図 19.



12 歳以上では女児に解離のサインが顕著であった．男児では 11 歳前後に多く出現している．

図 20.

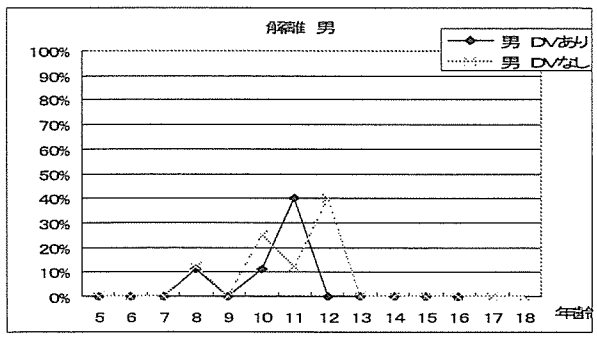
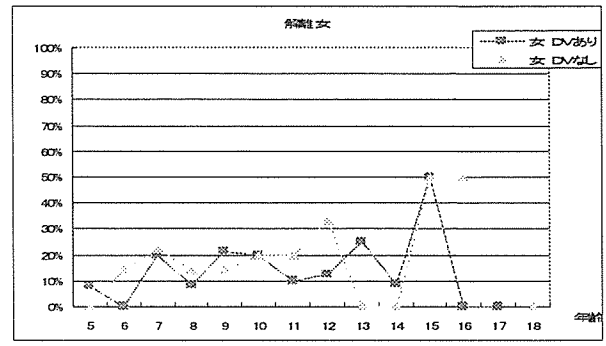
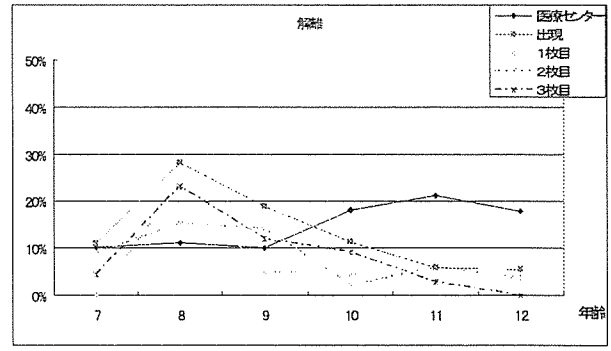


図 21.



解離の表現は一般的にも女性の描画に高い頻度で見られ，また「夢の木」に出現しやすい．公立小学校では「夢の木」も実施したので，図 22 にみるように 9 歳までは高いのだが，対象児童を見ると 10 歳以上では優位に高い．これは対象児童の中でも特に女児の高い出現傾向によると思われる．

図 22.



(6) ウロ

図 23〜図 26 は，ウロに関する出現頻度を示している．

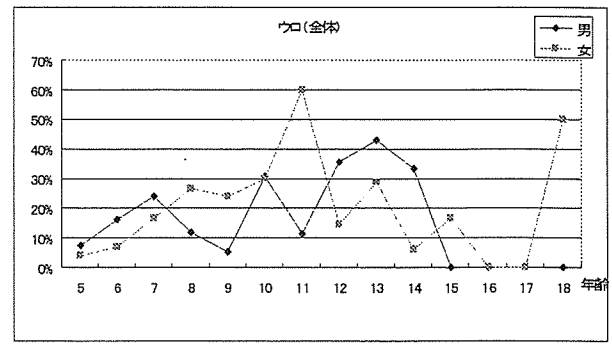



図 23.